

片平丁小学校の取組

I 校内研究の概要

1 校内研究

(1) 研究テーマ

伝え合う力を育てる指導の工夫

～ 説明する力を育てる国語科の実践を通して ～

(2) テーマ設定の理由

本校は「ひろい心，豊かな創造力，すこやかな体を養い，新しい時代に志をもって生きぬく子供を育成する」を教育目標に掲げ，「思いやりのある子」「よく考え，自ら学ぶ子」「進んで体をきたえる子」を目指す児童像としている。

素直で意欲的な児童であるが，平成 18，19 年度に取り組んできた算数科の校内研究では，自分の考えをもつことができるようになってきた一方で，相手に分かるように伝えること，友達の考えを聞き合うこと等，伝え合うという点で課題が残った。また，諸調査の結果から全国的な傾向と同様に，自分の意見を書いたり，発表したりするなど表現することに課題があることも分かった。

このような実態を踏まえて，伝え合う力を高めることを本校の課題ととらえ，昨年度から国語科で「説明する力を育てる」指導法を探ってきた。

(3) 説明する力の具体化

本校では，伝え合う力を育てるために「説明する力」という視点で研究を進めてきた。「説明する力」をより具体化するために，目的による説明の表現様式をベースに，7つの力ととらえた。(資料1)そして，各学年部で重点的に身に付けさせたい力と，繰り返し活用させながら定着を図りたい力を「身に付けさせたい力」の能力系統表に表した。(資料2)この系統表を作成することによって，授業実践を重ねながら，単元で身に付けさせたい力と「説明する力」の関係を押さえて指導を工夫でき，6年間の学びを意識しながら研究に取り組むことができると考えた。また，これらを各学年の年間指導計画(資料3)の中に位置付け，学校全体で共通理解を図り，各学年が1年間の見通しをもって「説明する力」を育てる国語科の授業づくりに取り組むことで，学校全体の「説明する力」を高めようと考え，授業実践に取り組んできた。

(4) 共同研究テーマとの関連

今年度から仙台市教育センターと共同して「応用力をはぐくむ授業の創造～各教科等における言語活動の充実を通して～」を研究テーマに，効果的な言語活動の在り方について授業実践を通して探ることになった。本研究では，「国語科に限らずすべての教科等において，授業本来のねらいである教科目標を達成するための手段・方策として「言語活動の充実」を図っていく。」ことを目指している。

そこで，今年度は昨年度の校内研究を継続しながら，本研究に取り組むことを確認し，校内研究の視点を次の3点に絞った。

(1) 「説明する力」を高める学習活動を工夫する。

(2) 単元ごとに身に付ける力を明らかにし，年間計画を見直す。

(3) 各教科等において，国語科で身に付けた力を意識し，活用を場を工夫する。

視点(1)(2)は，昨年度の校内研究の課題を基に，さらに「説明する力」の効果的な指導について実践を通して確かめ，系統性を検討していくことをねらいとした。また，本研究とのかかわりから新たに視点(3)を設け，校内研究の国語科で身に付けた言語力(「説明する力」)が，各教科等でどのように活用できるかを工夫していきたいと考えた。


また，研究にあたっては，昨年度も「自分の考えをもつこと，表現すること，交流すること」の流れを意識した授業実践が行われてきたが，今年度は，共同研究の中で取り上げられている「応用力をはぐくむために各教科等で重視した学習のプロセス『思

考・発信・交流・再考・発信』を意識して研究を進めていくことにした。

II 実践例

1 国語科（2年生）の取組

- (1) 単元名：ともこさんはどこかな
- (2) ねらい：迷子探しゲームを通して、大事なことを落とさずに話したり聞いたりする。
- (3) 説明する力との関連：内容を落とさずに伝える（5連絡）
- (4) 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	指導上の留意点
<div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; text-align: center;"> 思 考 展 開 交 流 再 考 </div>	導入 ○ すぐに見つけてもらえるような迷子探しのアナウンスを考えよう。	○ 特徴がわかる言葉や項目を思い出させる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #f08080;">考える</div>
	展 ○ 絵の中から迷子にする子を選び、アナウンスの内容を考えて書く。 ○ アナウンスの練習をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「付箋のメモをもとに、どんなアナウンスをしたらよいか考えよう。」</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #f08080;">付箋の活用</div> ○ 付箋のメモをもとに、特徴的なものや、取り上げる順序を考えさせる。
	開 ○ 少人数グループごとに問題を出し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「迷子の人を捜すために、大事なことを考えて、なるべく少ないヒントで当ててもらおう。」</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #90ee90; margin: 10px 0;">グループの活用</div>	○ 問題を聞いて答えを導くために必要な事項をしっかりと聞かせる。 ○ 机間指導しながら、発表させたい児童を選んでおく。 
	交流 ○ 代表の児童にアナウンスをさせ、分かりやすくアナウンスをするために気を付ける事を話し合う。	○ 分かりやすくアナウンスするための注意点を確認する。
再考 まとめ ○ 次時は、メンバーを代えてアナウンスすることを知る。	○ 次時への意欲をもたせる。	

2 国語科（4年生）の取組

- (1) 単元名：「伝え合う」ということ
- (2) ねらい：自分の知らせたいことがよく伝わるように、発表の仕方を工夫する。
- (3) 説明する力との関連：話の中心が分かるように、筋道を立てて伝える（6説明・報告）
 感じたことを交えながら、自分の意見を伝える。（4感想・意見）
 必要な事柄を収集したり、選択したりする。（3取材・構成）

(4) 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	指導上の留意点
思考 発信 交流 再考	導入 ○ 発表のよい例・悪い例を聞いて、発表に見通しをもつ。	○ 知らせたいことの中心が分かるモデルと分かりにくいモデルで、発表の仕方をとらえさせる。
	展 ○ 聞き合う観点をもつ。 ○ 発表の練習をする。 ○ グループで聞き合い、アドバイスをし合う。 「めあてを考えながら、お互いの発表を聞き合しましょう。」	○ 聞き合う時の観点 ① 相手の知らせたいことの中心が分かったか。 ② 文のつながりはどうか。 ③ 難しい言葉はないか。 ④ 説明の長さは十分か。 ○ 相手の話を最後までしっかり聞き、アドバイスカードに記入させる。 ○ 早く終わったら、アドバイスを生かして2回目の発表をさせる。 ○ 机間指導をしながら、発表させたい児童を選んでおく。
	開 カードの工夫 グループの活用	○ 知らせたいことの中心をはっきりさせて話している児童に発表をさせる。 「どんなところがよかったですか。」
まとめ	○ 聞き合う時の観点を使い、話し方のよい点を発表させる。	

(5) 国語科で取り組んできた言語活動例（全学年）

	取り組んできた言語活動例
考えをもつ（思考）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題について自分の考えを書く。 ・ 事柄の順序を整理する。 ・ 必要な事柄を選択し、自分の考えをもつ。 ・ 資料等を読み取り、自分の考えをもつ。 ・ 根拠や理由をはっきりさせて、自分の考えをもつ。
表現する（発信）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に伝わるように、順序に気を付けて話す。 ・ 大事なことを落とさないように話す。 ・ 話の中心を考えて伝える。 ・ 自分の考えを相手に分かりやすく伝える。 ・ 組立てを考えながら自分の考えを効果的に伝える。
交流し再考する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の考えを落とさないように聞く。 ・ 分からないことや詳しく聞きたいことを尋ねる。 ・ 自分と相手の考えの共通点、相違点を比較しながら聞く。 ・ 相手の発表に対する感想や意見をもつ。 ・ 互いのよさを学び合う。

3 道徳（1，2年生）の取組

(1) 道徳で取り組んできた言語活動例

	取り組んできた言語活動例
考える（思考）	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読んで、あらすじをとらえる。 登場人物の気持ちになって、ワークシートに書く。
発表する（発信）	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物になって（お面など）発表する。
交流・再考	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞きながら、自分の考えと比べる。

4 社会科（5年生）の取組

(1) 単元名：これからの食料生産とわたしたち

(2) ねらい：農業おこしている問題が、自然環境や世界の食料不足に与える社会的な意味を考え、発表することができる。

(3) 学習指導過程


	段階	学習活動・主な発問	指導上の留意点
思考 発信 交流 再考	導入	○ アマゾン地帯や外国などで、開発（開墾）されている画像を見ながら世界の食料事情について考えていくことを知らせる。	
	展開	○ 教科書P. 45上段資料「食糧が不足している国や地域」を見ながら気付いたこと、考えたことをノートに書く。	○ 資料から分かる事実を書かせる。
	開	○ グループごとに発表し、その後代表が全体に発表する。 グループの活用	○ 栄養不足と経済の発展（先進国と途上国）を関連付けて考えることができている児童に意図的に指名する。
		○ 栄養不足を解消するためにどうすればいいのかを全体で話し合う。 ○ 資料「世界の人口の変化」「世界の耕地面積と生産量の変化」を全体で読み取る。	○ なぜ、その地域が栄養不足となっているかを多面的にとらえさせる。 ○ 話し合いを通して自分が気付かなかったことに気付かせる。
	まとめ	○ 本時の学習内容をまとめる。	○ 世界の国々が互いに協力することの大切さを確認する。

(4) 社会科で取り組んできた言語活動例

	取り組んできた言語活動例
考えをもつ（思考）	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取った事実を書く。 事実から考えられることをまとめる。
発表する（発信）	<ul style="list-style-type: none"> 読み取った事実や考えをグループや全体で発表する。
交流し再考する	<ul style="list-style-type: none"> 発表を聞き合いながら、自分の考えと比べる。 友達の考えを書き加える。 自分が気付かなかった考えを取り入れる。

5 算数科（3年生）の取組

- (1) 単元名：かけ算のしかたを考えよう
- (2) ねらい：2位数×1位数の計算の仕方を考える。
- (3) 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	指導上の留意点
思考 発信 交流 再考	つかむ ○ 問題をつかむ。 問題 1まい23円の色画用紙を3まい買うと、代金はいくらですか。	○ 前時までのように1回だけの九九の適用では答えが求められないことに気付かせる。
	もとめる ○ 23×3の計算方法を考える。 時間の確保	○ ノートに式や言葉、図等を使って、自分の考えを書かせる。 ○ 考えをまとめることができない児童には、図等の方法を教える。
	高め ○ 考えたことをペアで発表し合う。 グループの活用	○ 交替で自分の考えを相手に説明させる。
	合う ○ 考え方を説明し、全体で検討する。	○ 説明を聞く時は、自分の考えと同じところに注意して聞かせる。 
	まとめ ○ 学習のまとめをする。	○ 分配法則を使った求め方を取り上げ、そのやり方をまとめる。

(4) 算数科で取り組んできた言語活動例（3．4．6年）

	取り組んできた言語活動例
考えをもつ (思考)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項を基に、課題について、見通しをもち自分なりに考える。 ・ 言葉や式、図等を用いて考える。
聞き取る (発信・交流)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手が伝えようとしていることをとらえながら聞く。 ・ 自分の考えと共通する点、違う点を比較しながら聞く。
発表し、交流する (発信・交流)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉や式、図等を用いて、順序に気を付けながら伝える。 ・ 相手の反応を見ながら、分かりやすく伝える。

III 成果と課題

(1) 今年度の研究を振り返って

今年度は、校内研究の国語科を継続しながら、共同研究において各教科等における言語活動の在り方を探ってきた。その結果、国語科と各教科等のつながりが少しずつ見えてきた。

○ 系統性を意識した指導の必要性

国語科の「説明する力」の年間計画を見直したことによって、どんな力を付けるとよいか明確になり、指導のポイントを再確認し、6年間の系統性を意識できた。また、各教科等の言語活動においても、国語科で身に付けた力を各単元の

どの場面で、どのように活用していくかを考えながら指導することができた。「説明する力」における身に付けさせたい力は、国語科だけでなく、各教科等においても大切な力となることが、系統性を見直すことによって分かってきた。

一方で以下に挙げた「説明する力」における身に付けさせたい力は、1回の指導だけでは身に付けにくく、年間指導の中で繰り返し学習させたり、各教科等の言語活動の充実を図る中で意図的に学習させたり、系統性を意識して6年間の中で学ばせたりしなければならないことが見えてきた。

3 取材・構成・・・必要な事柄を収集したり、選択したりする。(中・高)

4 感想・意見・・・事象と意見・感想を区別し伝える。(高)

6 説明・報告・・・話の中心が分かるように筋道を立てて伝える。(中・高)

○ 自分の考えをもつための手だて (思考)

児童が自分の考えをもつ思考の場面では、1, 2, 3年生は考えるための視点を与えた。また、4, 5, 6年生は思考の場面で、よいモデルや悪いモデルの例を示したり、聞き合う時の観点を提示したりした。さらに交流し再考する場面で、授業のねらいが達成できているモデル等の具体的な姿を見せた。これらの手だてによって、児童は目指す方向を理解しやすくなり、教師も指導のポイントを明確にすることができた。その一方で指導するための視点を教師が具体的にもたなければ、子供の考えを事前に把握し、座席表を使って短時間で子供の様子を見取れないことも痛感した。今後は事前に目指す姿を十分に話し合い、机間指導や意図的指名に生かせるように取り組む必要がある。

また、話す順序や組立てを工夫するために付箋が効果的であることが分かった。付箋は、思考しながら順序を何回も変えられるので、考えを整理したり、組立てを考えたりする時に取り入れた。その結果、2年生の国語科では、順序を考えやすくなり、学習に意欲的に取り組む様子が見られた。また、5年生や6年生の国語科でも組立てを考える時に使ったところ効果的だった。各教科等での可能性は今後確かめていきたい。

○ 表現し交流するための手だて (発信・交流・再考)

児童が考えを交流し合う場面(発信・交流・再考)では、少人数グループ(ペア、グループ)での学習が効果的だった。少人数グループにすることによって、全員に発表の機会をつくったり、発表に対して苦手意識をもっている児童の意欲を引き出したり、繰り返し練習させたりすることができた。また、グループにリーダー格となる児童を意図的に配置することで学習活動をスムーズに行うことができた。さらにこの手だては、国語科だけでなく各教科等でも有効であることが社会科や算数科の取組から見えてきた。今後は、各教科等でも繰り返し取り入れていきたい。

今年度の課題として、聞くことがまだ十分とはいえないことがあげられる。友達がどんなことを説明しようとしているのか、自分とどこが同じでどこが違うのか等、話すだけでなく相手のことを考えて、聞き合うことも大切にしながら学習を進めなければならない。各教科等を通して、今後学年に応じた指導の工夫を続けていきたい。

(2) 次年度に向けて

- 国語科で身に付けた言語力(説明する力)を意識した授業実践をさらに重ねる。
- 応用力をはぐくむために各教科等で重視した学習プロセス「思考・発信・交流・再考・発信」を意識した授業に取り組み、手だてを工夫する。
- 各教科等のねらいを達成するために、目的をはっきりさせた言語活動を行い、その有効性を探る。
- 各教科等で系統性を踏まえた指導をするために、グランドデザインを利用し計画的な授業を行っていく。